



村上 栄二のここだけの話

連載

お題目

花火大会中止を決めるのは、主催者のいち存で良いのか？

意見広告

問題提起

8月18日県議会警察・商工労働委員会における質問で【雑踏警備】について県警に質問を行った。4年ぶりの花火大会に関して、**中止判断基準もない中で主催者に開催判断可否を一任する事が課題として提起**。特に花火大会は街レベルでの広域会場となるからこそ、開催判断基準が必要ではないか？

質問背景

福山市花火大会は**19時頃雨も強まり風も10メートルを超えており、花火大会中止判断は妥当だった**。しかし、徳島市では台風により避難所開設に迫られている状況下で

市長の中止要請に応じず阿波おどり開催を執行したことが大きな問題となっている。消防団を含めた多くのボランティア、警察、福山市職員を含め大規模な自主警備が必要である以上、**主催者のみによる判断は疑義を感じる**。

村上栄二の提案

近年、台風や自然災害も頻発しているアフターコロナの時代において、行政機関や商工会議所等が事前に意見交換を行い、**【大規模イベント開催の判断に係るガイドライン】**を定めるべきと要望。

福山市への質問状

2019年まで16日順延予備日がありましたが23年はなくなった理由は？
19年に初めて中止した際に当初翌日順延としていたが、打上会場が河川であり、**気象状況にもよりますが増水を伴う場合が多く想定され、順延の可能性が低く困難であると判断した経過からの対応**であり、これは福山市が河口堰付近に会場を移動し、花火大会が中国地方で最大級の水上スターマインを実現可能とした結果でもある。

2019年と23年の予算はどのようになっていますか？

2019年度7575万1000円。23年度9720万円と大幅増額している。
他都市は予算縮小や寄付も集まりにくい中で、福山市と企業に感謝だ。

開催可否判断は？

中止判断は事務局が市の防災担当部局や気象庁の情報を得ながら、また企画・運營業務の受託事業者や花火や警備など関係事業者の意見も参考に方向性を定め福山祭委員会で決定している。
しかし、**地域や立場で意見が散見されるからこそ、広島県が独自基準を遂行すべきだ**と思う。引き続き議会で議論していく。

村上栄二の意見

コロナ禍で花火師が減少し、忙しくて順延が取りやめになったわけでもない。要は河川打上会場という事で**増水リスクを想定し事前からの順延をしない**という判断ではなく、**AI・雨雲レーダー等が進化した事を踏まえて予備日順延の再導入を来年度から検討していく必要があるのではないだろうか？**



2019年の開催告知。雨天時の順延日が記載されていた。

これってホントの話??

芦田川下流に花火会場を移した時に当時の市長が周辺に住んでいた為に**【市長の恣意的判断で花火会場が草戸から下流に移動したと都市伝説】**を耳にした事がある。結果としては、会場が河川内という事もあり、順延が難しくなったというデメリットもあれば、当時の国道2号線大渋滞、河川が細く火災リスクなどから消防団の人たちも気が気でなかったと聞く。花火大会に様々な技術や大きな花火仕様が可能になったメリットを含め総合的に考えると移設は必要な決断だったと私は理解する。